

2023年5月28日

「聖霊に満たされて」

使徒言行録 2:1-11

竹島 敏牧師

五旬節のこの日、弟子たちは約束の聖霊に満たされて、神の偉大なわざを、そこに集った人々のそれぞれの国の言葉で語ったとあります。その場にいる一人ひとりの心に通い合う生まれ故郷の言葉で、つまり一番良い方法で、神の偉大なわざを語ったといえるでしょう。私たちの主は、かつて正当な理由もなく十字架につけられてしまった。理不尽な苦難に遭う、苦難を背負わされることを「十字架を背負う」と言うようになりました。私たちの人生にも様々に理不尽と思える出来事があり、十字架を背負わされる時があります。そしてそのたびに私たちは悩み、迷います。しかし、その十字架のキリストを見つめていると、自分は一人ではなく、すでにそのすべての苦しみを味わった上で寄り添い、支え、共に苦しみを背負ってくださっている方がいる、ということがわかってくるのです。それは大きな力になります。その時、私たちの心の中には、あたたかい神の霊・いのちの風が吹き込んでいます。かつて、弟子たちが慰められ励まされ、その力によって立ち上がり、教会を創っていった「いのちの風」を私たちも受けて、再び歩み始めていくことが出来るのです。そして、心を合わせて一つになって祈り、神の霊をいただいて歩む、その様な生き方そのものが、周りの人に神のわざを伝えることになっていくのです。実際、そのようにしてキリスト教は 2000 年もの間、伝えられ続けてきました。そして聖霊とは、神が創られたすべての命を支え導く「いのちの風」です。様々なことで悩み苦しむ私たちの命を支え、今の命と次の時代の命をつないでくれる風、それが聖霊・いのちの風なのです。